

早生穂肥編

1 生育概況と当面の管理

分けつ期に当たる6月上旬の平均気温は平年より高く推移し(七尾市で20℃(平年+1℃))、分けつが急激に増加した。葉数の展開から推測される生育の遅速は、早生品種、コシヒカリともに平年並みとなっている。早生品種では6月末まで、コシヒカリでは7月10日頃まで、引き続き、中干しを継続し、稲体の健全化を図るとともに、今後は①「適切な穂肥の施用」、②「出穂後の2回防除の徹底」、③「出穂まで1か月間の飽水管理」に努める。

【参考 生育調査結果(6月22日現在)】

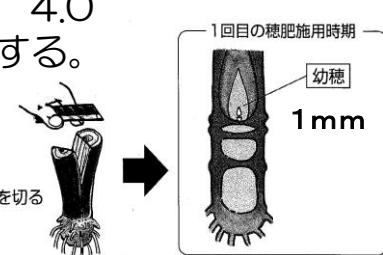
品 種	調 査 場 所	田植日	草 丈 (cm)			株当たり茎数 (本/株)			葉 齢 (枚)		
			本年	前年%	平年%	本年	前年%	平年%	本年	前年%	平年%
コシヒカリ	羽咋市立開	5月2日	47.6	120	95	29.5	93	99	9.9	102	98
	志賀町福野	5月4日	40.3	114	87	26.9	82	108	9.5	101	97
	志賀町八幡座主	4月28日	42.3	115	95	30.7	109	116	10.3	111	104
	中能登町小竹	5月6日	41.4	116	92	20.9	97	89	9.2	99	93
	七尾市中島町河崎	4月29日	38.3	110	88	25.1	105	99	9.9	110	102
平 均			42.0	115	92	26.6	97	102	9.7	105	99
ゆめみづほ	志賀町福野	5月11日	33.9	93	81	20.6	57	71	9.6	94	93
	宝達志水町小川	5月1日	41.4	114	93	29.2	86	87	10.6	110	98
	七尾市中島町河崎	5月4日	36.6	100	91	29.7	102	111	10.4	103	102
	中能登町新庄	5月3日	40.2	109	93	27.4	89	102	10.2	102	99
平 均			38.0	104	89	26.7	82	92	10.2	102	98
ハナエチゼン	中能登町川田	5月8日	39.7	110	91	28.4	97	114	9.7	95	94
ひやくまん穀	羽咋市千路	5月5日	40.3	121	-	26.5	238	-	9.8	112	-
	七尾市中島町笠師	5月10日	36.1	115	-	17.1	115	-	8.4	112	-
平 均			38.2	118	-	21.8	168	-	9.1	112	-

〔今回のポイント その①〕

穂肥の「適期」「適量」施用で未熟粒の発生を防止!!

2 出穂予測と穂肥時期の目安

- ゆめみづほの出穂期は7月21日頃、ハナエチゼンの出穂期は7月20日頃の見込みです。(6月22日時点)
- 分施肥系では葉色が濃い場合や過剰生育で1回目の追肥が出来ない場合でも、稲体の消耗を防ぐために、2回目の追肥は必ず施用して下さい(【注意】追肥を1回目の時期の1回のみで終わらせないこと)。
- やや生育過剰なほ場、葉色の濃いほ場では1回目の施用時期は遅らせず、量を減らして施用する。
- 穂肥一発体系(BBLP秋ゆたか)では分施肥系の1回目の穂肥時期よりも2日程度早めに施肥する。

品 種 名	回数	肥料名	時期(出穂前日数)	施用量	備 考
ハナエチゼン 7月20日頃 (平年より2日 早い)	1回目	BB 秋ゆたか	6月27日頃(23日前)	15~20kg/10a	1回目の穂肥施用時は 幼穂長 1mm 葉色板 4.0 を基準とする。 
		BBLP 秋ゆたか	6月25日頃(25日前)	35~40kg/10a	
	2回目	BB 秋ゆたか	7月10日頃(10日前)	20kg/10a	
1回目にBBLP 秋ゆたか施用の場合、2回目は不要					
ゆめみづほ 7月21日頃 (平年より2日 早い)	1回目	BB 秋ゆたか	6月28日頃(23日前)	15kg/10a	葉色が濃い場合(葉色板4.0以上) は施用量を3割程度減じて施用す る。 地力がなく秋落ちしやすいほ場は、 BBLP 秋ゆたかを施用する
		BBLP 秋ゆたか	6月26日頃(25日前)	30~35kg/10a	
	2回目	BB 秋ゆたか	7月11日頃(10日前)	20kg/10a	
1回目にBBLP 秋ゆたか施用の場合、2回目は不要					

※基肥一発肥料(BB スリム早生一発くん等)を施用したほ場では、原則、穂肥(上乘せ追肥)を施用しないこと

次ページに続きます。

〔今回のポイント その②〕

出穂後の2回防除を徹底し、斑点米の発生を防ぎましょう。

3 斑点米の発生防止対策

斑点米カメムシの生息密度を下げるため、7月10日頃までに地域・集落ぐるみで畦畔や農道等の一斉仕上げ除草を実施しましょう。**一斉草刈り強化週間は7月4日（水）～7月10日（火）です。**

ただし、7月中旬以降の除草は、斑点米カメムシを本田に追い込むこととなるので、基幹防除直前に行ってください。

基幹防除では、出穂期の7日後（穂揃期）と、14日後（傾穂期）の2回防除が斑点米の被害防止に重要なので、必ず実施しましょう（出穂期とは、ほ場全体の40～50%が出穂した時期をいいます）。

(1) 基幹防除

①粉剤体系

〇〇〇 は、化学合成農薬成分

	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	散布時期	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	トレバリダビーム粉剤 DL 2成分	3～4kg	7月17～19日頃	出穂直前防除
2回目	いもち病、カメムシ類	ラブサイドクラブ粉剤 DL 2成分	3～4kg	7月25～28日頃	出穂7日後頃 穂揃期
3回目	カメムシ類	クラブ粉剤 DL 1成分	3～4kg	8月1～4日頃	出穂14日後頃 傾穂期

※ 粉剤は防除効果を高めるため、風の無い時間帯を見計らい、散布後3～4時間は降雨がない日に散布する。

②粒剤体系

粒剤防除は一人で散布できることや、粉剤のような飛散（ドリフト）が少ないため、市街地等でも散布が可能なメリットがあります。

	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	イモチエースクラブ粒剤 2成分	3kg	出穂の10～12日前 に散布 (散布後4～5日の湛水)
2回目	カメムシ類	クラブ粒剤 1成分	3kg	出穂7日後頃 穂揃期に散布 (散布後4～5日の湛水)

③液剤体系

	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	散布時期	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	ビームエイトレボンゾル + バリダシン液剤5 2成分 0成分	650倍・1000倍・100L	7月17～19日頃	出穂直前防除
2回目	カメムシ類	クラブフロアブル 1成分	1000～2000倍・60～200L	7月25～28日頃	出穂7～10日後（穂揃期）

(2) 随時防除の実施

病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	摘要
稲こうじ病 墨黒穂病	撒粉ボルドー粉剤DL 又は Zボルドー粉剤DL 0成分	3～4kg	【予防剤】常発地では出穂10～14日前に散布 (出穂10日前以降は薬害の恐れがあるので散布しない)

【農薬の適正な使用について】ラベルに記述してある使用方法以外の使い方をすると法律（農薬取締法）で罰せられます。消費者に安心して安全な能登のお米を食べていただく気持ちをもって、農薬は正しく使用して下さい。

〔今回のポイント その③〕

中干し後から出穂までの約1か月間の「飽水管理」の徹底

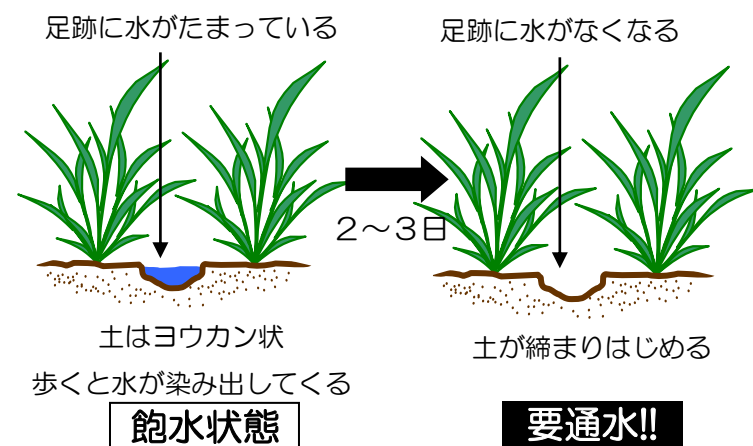
4 中干し終了後の水管理

登熟期間の水稻の活力を維持するためには根を健全に保つことが重要です。根の活力維持には、適期中干しに加え、中干し以降の水管理が大きく影響します。きめ細やかな水管理により登熟を向上させ、未熟粒の発生を防ぎましょう。

(1) 飽水管理の徹底

幼穂形成期（早生6月末、中生7月10日）以降は新しい根の発生が少なくなるため、中干し終了後は2～3日間隔を目安に通水し、飽水状態（右図）を保ち、根の活力維持を図りましょう。

- 1 通水は出来るだけ朝方か夕方に行いましょう（水田内の温度を上げない）。
- 2 向こう1か月の予報によると北陸地方の降水量は平年並から少ないとされているため、集落や地域ぐるみで、計画的な水利用に努めましょう。



【飽水管理とは・・・】
ほ場表面に水はないが、足を踏み入れると水が染み出てくるような水分状態を維持する水管理